



お浄土
編

お浄土って…?

さ

あいよいよ大詰め、この「ほとけほっとけない」もシリーズ最後のお浄土編となりました。今回は“極楽浄土ってどんなところ?~どう考えればいいのか?”と言ったことに焦点を当てて出来るだけわかりやすく話を進めて行きますね。

なぜ“極楽”と呼ぶのか

薬

師如来の瑠璃光浄土、観音さまの補陀落浄土など、実はお浄土ってたくさんあるんですが、その中でも阿弥陀さまの極楽浄土は皆さんよくご存じかと思います。でも「名前は知っているが詳しくはわからない」って方がほとんどじゃないでしょうか?少し乱暴かもしれませんが、その極楽のことを分かりやすく一言で言ってしまうと「生きている間どんなに辛い立場であっても、またどんなに罪深い暮らしを送っていたとしても、心の底から生まれたいと願うならば必ず迎え入れよう」と阿弥陀さまがお誓いを建てられお造りになった所(お浄土)です。

お

経の中には『その国の人々には、苦しみもなくただ心の楽しみが極まりない』と説かれています。またその様子は、『宝の樹がそびえ、美しい宝石で飾られた楼閣が建ち並び、八つの功德を持つ水で満たされた池があり、その池には様々な色の蓮の花が咲き、それぞれの花はそれぞれの色で輝きそれぞれの^{かぐわ}しい香りを漂わさせています。目を空に向けると、天人や美しい鳥たちが飛び

交い、妙なる調べが常に奏でられている。その世界の中心で阿弥陀さまがいつもやさしくお話しされていて、そこの人々には一切の苦しみ^{パラダイス}の元となる迷いは生まれません。』と説明されています。まさに“樂園”ですね。

(現在は別のイメージが定着しているのでも樂園とは思えないかもしれませんが、実はお寺の本堂はそれを再現したものにはかなりません。)

そんな世界が存在するの?

現

代を生きる私たちがこの言葉^現をそのまま信じる事は難しいかもしれません。しかしこのお経に描かれている世界は、その当時の人たちに分かりやすく表現さ

れたものに他ならず、大切なのは、極楽浄土とは「生きている間の全ての欲や憂いが無い世界」、それらが無いと言う事は、恐れや不安、その根源である迷いも無く、(自らを振り返り)この極楽を求めるのであれば、生きている“今”感じているそれらも必ず消滅する」と言う事です。



例

えば一例ですが、私たち人間には常に「病気にならないか…」と言う心配や不安がついてまわります。健康に気を使って生活している人、分かっている

ふせっせい

も不摂生な生活をやめられない人、どちらにしてもこの“心配”や“不安”

は自分だけでぬぐいきれるものではないかもしれません。そこで年に一度ぐらい…、もしくはそれ以上、健康診断や人間ドックなどを受診して健康状態を調べる…そんな方が多いんじゃないでしょうか？定期的に検診を受けていれば、その結果が良好であれば次の日からの暮らしを安心して送れます。仮になんらかの問題があったとしても、どのようにすれば改善されるのか、どのようにその問題と向き合えば良いのかなど、自分の心の指針を定めることができ、少なくとも「病気かどうか分からない」と言う不安は解消され、時には、ポジティブな勇気を湧かせる原動力にする事が出来るかもしれません。



お

釈迦さまは「生きている人間には四苦八苦を始めとした様々な苦しみが存在する」とお説きになられ、そしてそれらは煩惱と呼ばれる心の迷いから生じるとも教えてくださいました。自分を振り返って考えてみると、充分食べていても、充分愛されていても、それに気づけず「もっともっと」と求めてしまっていることがよくあります。飽食の時代、一昔前と比べると驚くほど便利で豊かな時代になり

しくはつく

ぼんのう

ました。それでも人間の欲求は底なし沼のように深まる一方なのを自分自身を顧みて痛切に感じます。そして、そんな迷いの最大で元となるのは「いつかは自らに訪れる命終」と「その後どうなるのかわからない」事に対する不安に他ならないでしょう。



今

回の話のテーマである極楽浄土は、阿弥陀さまが、人々が限られた生命の時間の中でそれらのことに煩わされ右往左往する姿に「その不安を全て引き受ける」とお造りになされました。何故ならば、もし人々がこの不安から解放されたならば心穏やかに、実りのある人生を送ることができるからです。

だ

とすれば、お浄土は必ずしも「亡くなってから必要なもの…」だけでは無いことがわかります。私たちが抱える自分で解決できない（どうしようもない）心の問題は阿弥陀さまが解決して下さいます。健康な人生を送るために“阿弥陀さまの極楽浄土に思いを馳せる”のは心の健康診断を受けるようなもの…。「人間ドックに行く心持ちでお寺にお参りしてみる」なんて、心の指針が不確かな現代にはとても重要なことかもしれないですね。



極楽の歩き方

「極楽浄土」は、どんなところかご存知ですか？ 経典には、こう記してあります。

「仏の世界、私たちのご先祖さまが暮らす世界。その主は阿弥陀如来である。

極楽に生まれることができた人は、

阿弥陀如来の説法を聞いていると自然と悟りがひらけてくる。

そして、観音菩薩や勢至菩薩などたくさんの菩薩がいて、みんな良き仲間である。」

すこし堅苦しいので、ここからは「極楽浄土」を観光案内風に紹介させていただきます。定番の有名スポットから、超穴場スポットまでご案内いたしましょう。



絶対外せない絶景スポット！

① 宝樹 HOUJU

この世にも写真のような神秘的な樹木はありますが、極楽の「宝樹」は眺めていると時を忘れてしまうほどの樹木です。なぜなら、この世の樹齢何千年という天然記念物よりも、太く、大きく、枝は広がって葉が生い茂り、つぼみからはあらゆる宝石が生まれ、まるで満開の花のように咲いているからです。



壮大で美しい穴場スポット！

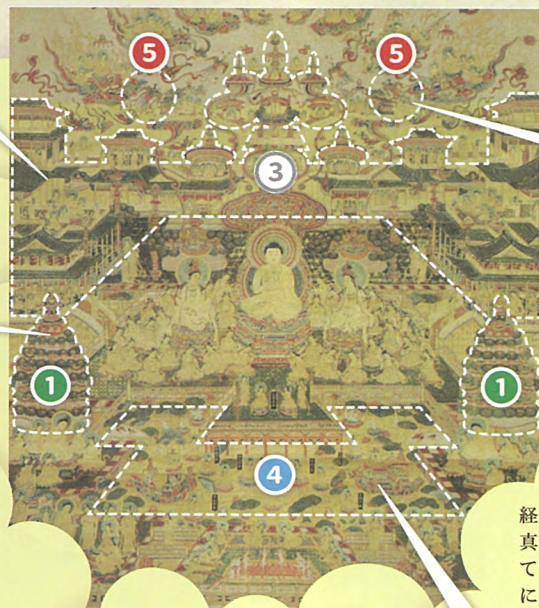
② 欄盾と羅網 RANJUN & RAMOU

極楽の最果てには結界のための大きな柵があり、それを「欄盾」といいます。インドの仏跡には彫刻で飾られた立派な欄盾がありますが、それよりも遙かに大きくて豪華な欄干です。さらにその欄盾が七列に重なり立っていますので、あきれてしまうほど壮大です。そして、その欄盾の内側には、結界をさらに強くする「羅網」が張り巡らされています。それは、金と銀の糸で編みである美しい網で、あらゆる宝石が散りばめられています。そよ風が吹くと羅網がゆれて、キラキラといろんな色の輝きを放つので、思わず目を奪われてしまいます。

だれもが驚く定番スポット！

③ 宝楼 HOUROU

極楽の中心街には宮殿楼閣が建っています。これを模したのが10円玉に描かれている宇治の平等院鳳凰堂ですが、本物の美しさは比べものになりません。そのような宮殿楼閣が5百億も建ち並ぶ想像を絶する景色に、極楽に行った人はだれもが驚愕します。現代にも写真のような摩天楼がどんどん建立されています。これには、極楽の方も驚くかもしれませんね。



たいまんだら
【当麻曼荼羅】
総本山誓願寺所蔵

経典を絵であらわしたもので、真ん中には極楽浄土が描かれています。1300年ほど前に日本にもたらされた原本は国宝となっています。



うわさ以上に美しい有名スポット！

④ 宝池 HOUCHI

極楽に蓮の池があるのは有名ですが、実はその蓮の一つ一つはとても大きく、その上に純白の信者たち(生を終えお念仏によって極楽に迎え入れられた人々)がつぎつぎ生まれてきます。さらに、咲いた蓮の花は、それぞれがう色の光を放って、それぞれで輝いています。その有名な蓮池の風景は、うわさ以上に美しいと評判です。

以上、極楽浄土のほんの一部を案内いたしました。古より「極楽浄土」は、この世の人々が憧れる死後の理想郷であり、人々はそれを形にしようと、数えきれないほどのお寺やお仏壇をつくってきました。あらためてお寺やお仏壇をよく見ていただければ、極楽の様子を表現していることに気づかれるでしょう。

さて、みなさんは「極楽浄土」に行ってみたいと思いましたか？ 文明が進み、かつてないほど贅沢な暮らしに慣れてしまった現代人にとって、「極楽浄土」はもう憧れの場所ではないのでしょうか？ 実はそうということではないのです。本来「極楽浄土」とは、「どれだけ時間をかけても表現することができないところ」とされています。今回紹介しました「極楽浄土」は、2千5百年も昔に、お釈迦さまが当時の人々の世界に合わせて、解りやすく説かれたものです。もし、現代の私たちに対してであれば、お釈迦さまはもっと違った表現で「極楽浄土」を説かれたかもしれません。

「極楽浄土」とは、仏さまやご先祖さまの世界を、究極に敬って表現する、わたしたちの心の世界であることに、今も昔も変わりはありません。

姿と声の美しさが究極の鳥！

⑤ 極楽鳥 GOKURAKUCHOU

この世には孔雀という美しい鳥がいますが、極楽の鳥はそれを凌ぐと言われ、またこの鳥たちの鳴き声は、有名な作曲家でも驚くような素晴らしい音楽となって極楽中を響きわたっています。さらに、極楽にしかないといわれる天女と極楽鳥が合体した“迦陵頻伽(かりょうびんが)”に出会えたならば、そのあまりの美しさに「虜」になること間違いないでしょう。



「ほとけほとけない」

全5巻のご紹介

- ◆ お仏壇編 ～そもそもお仏壇って？～
- ◆ お葬式編 ～めんどくさい!?～
- ◆ お念仏編 ～馬の耳に念仏～
- ◆ お参り編 ～お参りって何のため？～
- ◆ お浄土編 ～それってどんなところ？～

※上記バックナンバーのお求めは右記の総本山誓願寺まで。

発行：浄土宗西山深草派

編集：浄土宗西山深草派
教学部 出版企画室

住所：〒604-8035
京都市中京区新京極桜之町453
総本山誓願寺宗務所内

メール：office_sk@fukakusa.or.jp

電話：075-221-0958

デザイン・イラスト

Moonlite Graphics 掛札 英敬



まったく
教義に 関係ない

心の健康度チェックシート

心の健康度

Yes No チェック!

◆ 10の質問に Yes か No でお答えください。

◆ 回答が Yes の数を数えて、シート下部の診断結果をご覧ください。



Q1

“タイムマシン”と“どこでもドア”なら、
断然“どこでもドア”だ!

☐ Yes ☐ No



Q2

夢の中で長いハシゴを登っています。
下を振り返らずに一気に登れますか?

☐ Yes ☐ No



Q3

犬より猫派である

☐ Yes ☐ No



Q4

UFOを見た!と友達が言っています。
信じますか?

☐ Yes ☐ No



Q5

家族みんなで評判のお店に行くと
行列になっていました。
並びますか?

☐ Yes ☐ No



Q6

旅行に行くなら海より山

☐ Yes ☐ No



Q7

予防接種を受けていたにもかかわらず、
インフルエンザにかかってしまいました。
来年も受けますか?

☐ Yes ☐ No



Q8

うどんよりそばが好き

☐ Yes ☐ No



Q9

TVでおいしそうなプリンを紹介してい
ます。ふと冷蔵庫を開けたらそのプリン
が入っていました。食べちゃいますか?

☐ Yes ☐ No



Q10

旅行中にパワースポットに行くより、
絶景ポイントに行きたい。

☐ Yes ☐ No

心の健康度

診断結果!

※ この診断結果には心理学的な根拠はございません。

あくまでもゲームとしてお捉えいただき、ご家族で楽しみいただければ幸いです。

Yes の数が 10!

Yes の数が 9~7

Yes の数が 6~4

Yes の数が 3~1

Yes の数が 0...



素晴らしい日々をお過ごしですね。
これからもつづけられるように、
お寺にお参りに行きましょう!



健康な暮らしを送ってみえますね。
心も充実して幸せな生活を送れるように、
お寺にお参りに行きましょう!



日々の暮らしに疑問をもっていますか?
気持ちがスッキリするように、
一度お寺にお参りに行きましょう!



体の違和感の原因は体以外にあるかも...
「病は気から」ともいいます。
まずはお寺にお参りに行きましょう!



心が悲鳴をあげていませんか?
まずはしっかりと自分を知るために、
すぐにお寺にお参りにいきましょ!